

平成 22 年 3 月期 第 2 四半期決算概要

2009 年 11 月 12 日

会社名 : クラレトレーディング株式会社
代表者 : (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 浅葉 修
問合せ先責任者 : (役職名) 人事・総務部長 (氏名) 宮西 賢治
: (TEL) (06) 6348-9287

(1) 当第 2 四半期の事業の経過およびその成果

当第 2 四半期累計期間 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日) は、特に前半において昨秋の米国金融不安に端を発する世界的な景気低迷の影響により、各方面で深刻な需要の低迷に見舞われました。その後期後半は、中国、日本における政府主導の需要喚起策の効果もあり、電気・電子、環境、化学品関連を中心に景気は回復基調となりました。

しかし、需要の落ち込みが深刻な衣料、住宅、設備関連では景気回復に遅れがあり、未だ回復軌道にあるとは言い難い状況にあるなど、大きく落ち込んだ需要の回復度合いは分野により差があります。

このような中、当社としましては差別化商品への注力、在庫圧縮、経費・コストの削減を通じ、業績の落ち込みを最小限に留める運営に努力して参りましたが、売上高は 49.3 億 1 千 1 百万円 (前年同期比△ 12.5 億 4 千 7 百万円、△ 20.3% の減収)、営業利益は 7 億 1 千万円 (同△ 7 億 2 千 8 百万円、△ 50.6% の減益)、経常利益は 6 億 8 千 9 百万円 (同△ 7 億 3 千 8 百万円、△ 51.7% の減益)、当期純利益は 3 億 5 千 5 百万円 (同△ 4 億 1 千 7 百万円、△ 54.0% の減益) となり、前年同期に対し大きく減収・減益となりました。

【業績】

(単位：百万円)

	当第 2 四半期 (09.4-9 月)	利益率	前年第 2 四半期 (08.4-9 月)	利益率	前年同期比	
					増減額	増減率
売上高	49,311		61,859		△12,547	△20.3%
営業利益	710	1.4%	1,438	2.3%	△728	△50.6%
経常利益	689	1.4%	1,427	2.3%	△738	△51.7%
中間純利益	355	0.7%	773	1.3%	△417	△54.0%

以下「 」の中の名称は(株)クラレの商標です。

(2) 営業の概況

<繊維関連> (減収、減益)

売上高は203億円。前年同期比▲63億円(▲23.7%)の減収。

(衣料分野)

- ・ スポーツ分野は、これまで注力してきた製品 OEM が順調に拡大しましたが、期前半の在庫調整によるテキスタイルの不振をカバーし切れず、減収となりました。
- ・ ユニフォーム分野は、景気低迷による需要減が影響し、各アパレルでの在庫調整により受注が大きく減少し、減収となりました。
- ・ 婦人・紳士分野は、婦人向け主力商品の「エルモザ」が市況悪化の中健闘しましたが、消費不振による百貨店、専門店向け販売が低迷し、減収となりました。
- ・ 輸出については、欧州の高級衣料向け需要不振と、中東向け販売数量が微減となったことにより、全体として減収となりました。

以上の結果、衣料関連は減収、減益となりました。

(資材分野)

- ・ メディカル関連資材は、インフルエンザ対策影響も加わる等好調な需要に支えられ、増収を確保しました。
- ・ 産業資材では、新たに開拓した新興国向け土木・建築用ビニロンでの拡大や、スーパー繊維「ベクトラン」での中国向けの伸長がありましたが、自動車関連用資材が全般的に苦戦し、全体として減収となりました。
- ・ 「クラリーノ」は、軽工品用途を中心に健闘しましたが、靴用途、衣料用途は市況の低迷により低調に推移しました。

以上の結果、資材分野は、減収、減益となりました。

<樹脂・化学品・化成品関連> (減収、減益)

売上高は290億円。前年同期比▲62億円(▲17.7%)の減収。

- ・ ポパール関連は、樹脂が繊維分野での市況悪化から減収となりましたが、フィルムが、液晶関連需要の順調な回復により光学用途にて販売を拡大しました。
- ・ 「エパール」フィルムは、壁紙用途が住宅市況の低迷により伸び悩んだものの、主力の食品用包材が堅調に推移し、また冷蔵庫用断熱板用途の拡大も進み、全体として前年並みを維持しました。
- ・ 溶剤等化学品関連は回復基調にあるものの、期前半の落ち込みが影響し減収となりました。
- ・ 熱可塑性エラストマー「セプトン」は、期半ば以降国内外で回復基調となり、微減収に留まりました。

- ・ 耐熱性ポリアミド樹脂「ジェネスタ」は、新規に用途開拓した LED 用反射材向けが、液晶表示装置の LED 化の流れに乗り、順調に拡大しました。
- ・ メタアクリルは、ペレット輸出、汎用シート製品の販売が市況悪化により低調に推移しました。一方、複合材は、非住設分野への注力により微減収に留まりました。

(3) 年度業績予想(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

当社販売状況は、前期末から当期末の最悪期を脱し回復傾向にあります。このような中、当社はクラレ商材の拡販はもちろんのこと、独自ビジネスの育成・強化、アジアを中心とする海外ビジネスの拡大に注力し、業績の早期回復を図ることを第一目標に据え、取り組んでおります。

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回公表	950	15	15	8
今回公表	1,000	18	18	10

<注記>本業績予想は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上